

職業実践専門課程等の基本情報について(新カリキュラム)

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
北海道スポーツ専門学校		平成4年12月4日		滝本 玲		〒 065-0011 (住所) 北海道札幌市東区北11条東6丁目1番30号 (電話) 011-753-7073					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人吉田学園		昭和53年10月31日		吉田 祐樹		〒 060-0063 (住所) 北海道札幌市中央区南3条西1丁目15番地 (電話) 011-272-6070					
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	専門課程		スポーツトレーナー学科		平成29(2017)年度		-		平成29(2017)年度		
学科の目的		本学科は、スポーツや医療・福祉の現場等で人々の健康を支援することができ、パフォーマンスを発揮する為のコンディショニング・リコンディショニング、トレーニング、日常生活復帰に向けた機能改善エクササイズを、個人または集団に指導できる人材育成を目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		■主な取得可能資格: アスレティックトレーナー、健康運動指導士、トレーニング指導者、健康運動実践指導者、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、水泳コーチ I									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			2,700 単位時間	2,370~2,460 単位時間	90~120 単位時間	270~420 単位時間	0 単位時間	780~960 単位時間	
					- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	- 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)		留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)		中退率				
210 人	141 人		0 人		0 %		8 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		:		42	人					
	■就職希望者数(D)		:		41	人					
	■就職者数(E)		:		41	人					
	■地元就職者数(F)		:		38	人					
	■就職率(E/D)		:		100	%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		:		93	%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		:		98	%					
	■進学者数		:		1	人					
	■その他		:								
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)										
■主な就職先、業界等		(令和6年度卒業生) スポーツトレーナー、スポーツインストラクター、医療福祉施設、運動指導員等									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載					無					
	評価団体: -					受審年月: -					
						評価結果を掲載したホームページURL -					
当該学科のホームページURL	https://www.yoshida-sports.jp/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)										
	総授業時数					3,690 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					750 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間					
	うち必修授業時数					2,670 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					720 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					0 単位時間					
	(B: 単位数による算定)										
	総単位数					- 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数					- 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数					- 単位						
うち必修単位数					- 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数					- 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数					- 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)					- 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを遡算して六年以上となる者					(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					7 人
	② 学士の学位を有する者等					(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					2 人
	③ 高等学校教諭等経験者					(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位					(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					1 人
	⑤ その他					(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人
	計										10 人
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数										7 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
スポーツトレーナー学科では、実践的かつ専門的な職業教育を実践する為、教育課程編成委員会による意見を尊重し、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目開設、授業内容・実施方法の改善・工夫等)等に活かすことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かす為、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。

・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項

・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項

・学則の教育課程に関する事項

・教育課程に基づくシラバスに関する事項

・実習・演習等に関する事項

・その他、職業教育に関する事項

②教育課程編成委員会の提言等を踏まえ、学科会議にて付議・検討を行い、授業科目の追加や授業内容・方法の改善・工夫を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更については、理事会の決議を経て行われる。また、シラバス・実習・演習に関する変更については、校長の決裁を経て行われる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	③
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	③
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	③
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局 次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	①
滝本 玲	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校校長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	—
大森 達也	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校副校長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日(2年)	—
藤田 真	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 学科長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日(2年)	—
今北 雄太	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 副学科長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	—
喜多 奎介	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 教員	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年 8月30日 15:00～16:30

第2回 令和7年 2月14日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各種団体の養成認定校として認定を受ける為に必要な学びを継続しつつも、より実践的なスキルが身につく学びが最大化されるよう、実技・実習に重きを置いた教育課程の整備を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 事業委託契約書による連携を基本とし、実践的かつ即戦力となり得る技術習得を目指す為に連携を行うもの			
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 スポーツ業界の第一線で活躍するインストラクター、管理栄養士、トレーナー（アスレティックトレーナー、リラクゼーションセラピスト、鍼灸師、柔道整復師等）から業界動向も踏まえ、それに必要な最新の知識、技術を学び、時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスポーツ指導者を育てる。			
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
スポーツ栄養学	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	株式会社ウェルネスプランニング
リコンディショニングⅢ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	今日における機能的・体力的問題に対して、課題を解消するためのリコンディショニングプログラム、計画を考案し実践する。また、障害予防の観点からのアプローチも併せて理解する。	鍼灸サロン ビーグラン
スポーツマッサージ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	株式会社グローバルアンビシャス
見学実習	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	株式会社北海道日本ハムファイターズ、株式会社コンサドーレ、北海道イエロースターズ、レバンガ北海道
トレーナー総合実習Ⅰ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	株式会社トレリハ、Veitu石狩、学校法人酪農学園酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、鍼灸サロンビーグラン
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 教員は、学校法人吉田学園研修規程により次に掲げる各研修を通し、現在就いている業務又は将来就くことが予想される業務の遂行に必要な知識・技術・技能等を修得するとともに、その他その遂行に必要な能力・資質等の向上を図ることを基本方針とする。 ・専門学校教育研修会 ・階層別研修 ・外部研修等（学会等を含む）			
(2) 研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会		連携企業等：公認AT北海道協議会 公認アスレティックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
期間：	令和6年10月20日		対象：
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		

研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和7年3月16日	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	
期間:	令和6年8月 9日	対象:	正職員・嘱託職員
内容	テーマ「今、改めて「教師力」を考える ～教員とはどうあるべきか～」 分科会「ICTやアクティブ・ラーニングの手法を活用した魅力ある授業づくり、信頼関係を深め、問題の解決や未然防止に役立つ学生指導・支援の方策、職業観や勤労観、進路意識を高める指導方法や教育課程のあり方、発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応のあり方」		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会	連携企業等:	公認AT北海道協議会 公認アスレティックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
期間:	令和7年11月23日	対象:	
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		
研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和8年3月	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	AVINTON ジャパン株式会社 他
期間:	令和7年8月 8日	対象:	正職員・嘱託職員
内容	テーマ「学生の未来をひらく専門学校教育～学生理解と効率的な業務の推進～」 分科会「生成 AI の理解と活用(初級編)」、「高等学校における進路指導の理解と専門学校入学後の効果的な学生支援」、「発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応」		
研修名:	文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教育能力認定委員会
期間:	令和7年8月 1日	対象:	公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会会員校の教職員
内容	変化する高校生の理解と専門学校教育の展開～社会人基礎力の育成を目指して～		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
学校関係者評価委員会は、学校が行った次の事項に対する自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は、当該委員会においての意見・評価を、自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ることを基本方針とする。			
・教育理念・目標			
・学校運営			
・教育活動			
・学修成果・教育成果			
・学生支援			
・教育環境			
・学生の受け入れ募集			
・教育の内部質保証システム			
・財務			
・社会貢献・地域貢献			
・国際交流			

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育人人材像(教育理念(建学の精神)・目的・目標、育人人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか) ②教育の特色(社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか)
(2)学校運営	①運営方針(運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか) ②事業計画(事業計画を作成し、執行しているか) ③運営組織(運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか) ④教職員の評価・育成(教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取組みを行っているか) ⑤人事・給与制度(人事・給与に関する制度を確立しているか) ⑥情報システム(情報システム化等による業務の効率化が図られているか)
(3)教育活動	①目標の設定(教育理念、教育目的および育人人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか) ②教育方法・評価等(各学科の教育目標、育人人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか) ③成績評価・単位認定等(成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか) ④資格・免許取得の指導体制(資格・免許取得のための指導体制があるか) ⑤キャリア教育等(基礎的・汎用的能力(① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力)を身につけるための取組が実施されているか)
(4)学修成果	①学修成果(各学科の教育目標、育人人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか) ②就職率(就職率の向上が図られているか) ③資格・免許の取得率(資格・免許取得率の向上が図られているか) ④社会的評価(卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか)
(5)学生支援	①修学支援(学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか) ②就職等進路(就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか) ③学生相談(学生相談に関する体制は整備されているか) ④学生生活(学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか) ⑤中途退学への対応(退学率の低減が図られているか) ⑥保証人(保護者)との連携(保証人との連携体制を構築しているか) ⑦卒業生・社会人支援(卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか)
(6)教育環境	①施設・設備等(施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか) ②学外実習、インターンシップ等(校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか) ③防災・安全管理(防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか)
(7)学生の受入れ募集	①学学生募集活動(学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか) ②入学選考(入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか) ③学納金(学納金は妥当なものとなっているか)
(8)財務	①財務基盤(学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか) ②予算・収支計画(予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか) ③監査(財務について会計監査が適正におこなわれているか) ④財務情報の公開(私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか)

(9)法令等の遵守	①法関係法令、設置基準等の遵守(法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか) ②個人情報保護(個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか) ③学校評価(自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか) ④改革・改善(各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか) ⑤教育情報の公開(教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか)
(10)社会貢献・地域貢献	①社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか) ②ボランティア活動(学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)
(11)国際交流	①留学生の受入れ・海外への留学(留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか)

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価より、「資格取得率」「地域貢献」「教員・学生のモチベーション維持・向上」「学生募集」等に関する意見が寄せられた。

この意見を踏まえ、その改善を図るべく、取り組みの重要度・優先度を設定した後プロジェクトチーム化を図り、業界や地域のニーズ分析や、他専門学校動向調査(特色、教育課程の実態、教育実績、部活動実績、その他)等に取り組むこととした。社会に求められる即戦力人材の育成がより加速するよう、より良い学校運営の在り方を模索していく。

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長 リハビリテーション部	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会 事務局次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/>

公表時期: 令和7年10月31日

## 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

### (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学科目的に掲げた職業人の育成には、学校関係者との信頼関係を築き、連携・協力体制の構築が必要不可欠であり、その為に適切なツールにより、積極的な情報提供を行うことを基本方針とする。

### (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革・歴史 ・設立と教育目標、理念、教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等
(2)各学科等の教育	・定員数、在学生数 ・カリキュラム(授業概要、授業時数等) ・進級・卒業要件等(成績評価基準、進級・卒業の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・卒業者数、卒業後の進路(主な就職先、就職者数、就職率等)
(3)教職員	・教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取り組み状況 ・現場実習等の取り組み状況

(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取り組み状況</li> <li>・部活動の活動状況および実績</li> <li>・施設・設備等の教育環境</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生・生活指導への取り組み状況</li> <li>・カウンセリングの体制整備等に関する状況</li> </ul>
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金の取扱い(学費・納入時期等)</li> <li>・活用できる修学支援の内容(奨学金、経済的支援等制度、貸付金の案内等)</li> </ul>
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告書</li> <li>・収支計算書</li> <li>・貸借対照表</li> <li>・監査報告書</li> </ul>
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価、学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策等</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(                      ))

URL: <https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/>

公表時期: 令和7年10月31日

授業科目等の概要（新カリキュラム）

(専門課程　スポーツトレーナー学科　アスレティックトレーナーコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			トレーナーの役割	日本のトレーナーの歴史と位置付けを理解し、諸外国のトレーナーに相当する業務や資格制度・活動状況に触れ、活動する上での各スタッフの構成やその役割を理解する。特にチームスタッフとの連携協力の重要性などの理解、社会的な立場と秩序、貢献、倫理について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			測定と評価	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。測定と評価に必要な知識・実技能力を修得する。測定と評価結果についての的確な解釈ができる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
3	○			スポーツと指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			身体の解剖と機能Ⅰ	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅰ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			スポーツコンディショニングⅠ	コンディショニング要素のうち、「身体的因子」に該当する項目を中心に学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			リコンディショニングⅠ	スポーツの現場において、身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望ましい状態に導く為に必要な基礎知識を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
9	○			スポーツと救急対応	可能な限り、現場での安全を確保すること、又、現場で起こり得る様々な事象に対し冷静に判断し、最良の救急処置を施せる知識と実践能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
10	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	

11	○		検定対策Ⅰ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○			○		○		
12	○		検定対策Ⅱ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・後	30	2	○			○		○		
13	○		スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに関与してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○		スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識(けが、障害、疾病)など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		
15	○		健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○		健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
17	○		スポーツの安全・健康管理	スポーツ現場での指導において、プレイヤーの安全を確保することは必要不可欠である。プレイヤーの健康管理も含め安全にスポーツ実施を進める為の知識や方法を身につける。	2・前	30	2	○			○			○	
18	○		トレーニング科学	トレーニングを多角的側面から捉え、競技スポーツや一般層との関連を学び、様々な角度から、「科学的にトレーニングを理解」する。又、流行のトレーニング等についても検証し、分析する。	2・前	30	2	○			○			○	
19	○		JATI理論対策	日本トレーニング指導者協会(JATI)の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	
20	○		スポーツ外傷・障害の基礎Ⅱ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的な知識を基に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障害の病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	2・集	30	2	○			○			○	
21	○		リコンディショニングⅡ	特殊環境下や各競技特性に合わせたリコンディショニングについての知識を習得し理解を深める。	2・前	30	2	○			○			○	
22	○		スポーツ医学内科	スポーツ指導者にとって必要な医学的知識の基礎を学習するとともに、内科疾患について理解を深める。	2・集	30	2	○			○			○	
23	○		バイオメカニクス	身体運動に関するバイオメカニクスによる理解。(骨格の動きや筋の作用に伴う力の発生とその有効性について、理解を深める)	2・前	30	2	○			○			○	

24	○		スポーツコンディショニングⅡ	様々な競技の特性を理解し、適切なコンディショニングプログラムの立案、実施、指導能力の習得を目指す。	2・後	30	2	○			○			○	
25	○		身体の解剖と機能Ⅱ	1年次の内容の復習及び、AT教本の内容の確認。よりレベルの高い技術を提供・指導できるよう、生理学(運動生理学)の内容を中心に学習する。	2・通	60	4	○			○			○	
26	○		検定対策Ⅲ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、読解力の向上、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	2・通	60	4	○			○			○	
27	○		検定対策Ⅳ	AT理論試験対策を徹底的に実施し合格を目的とする。	2・後	30	2	○			○			○	
28	○		健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○			○	
29	○		スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	3・前	30	2	○			○			○	○
30	○		リコンディショニングⅢ	あらゆる要因によって生じた身体レベルの低下から最高のスポーツパフォーマンスを引き出す為のプログラムを立案し実践していく。	3・通	60	4	○			○			○	○
31	○		運動療法学Ⅰ	運動に伴って生じる生体内での生理反応についての基礎を学び、科学的根拠に基づいた運動療法を処方・実践するための基礎的知識を習得する。	3・通	60	4	○			○			○	
32	○		スポーツ外傷学	アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障害の病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	3・通	60	4	○			○			○	
33	○		スポーツと研究	スポーツに関する身近な疑問や課題をテーマに調査・発表を行い、研究の基本的な考え方や方法を学ぶ。主体的学習を通じて探究心と表現力を養う。	3・通	60	4	○		△	○			○	
34	○		検定対策Ⅴ	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの資格取得及び実践に必要な知識・スキルを身につける。	3・通	60	4	○			○			○	
35		○	検定対策Ⅵ	AT理論試験対策を徹底的に実施し合格を目的とする	3・集	30	2	○			○			○	
36		○	JATI トレーニング 指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為の対策授業とする。	2 3・集	30	2	○			○			○	○
37		○	スポーツ プログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○			○	
38		○	健康運動指導士 対策	健康運動指導士の資格合格を目指し、試験対策を実施する。	3・通	60	4	○			○			○	
39		○	BRSO対策	検定試験(BRSO)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○		△	○			○	○

40	○			ストレッチ	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	1・前	30	1			○	○			○	○
41	○			各種評価方法の基礎	アスレティックトレーナーとして必要な基本的な評価方法について学ぶ。身体機能評価、動作評価、フィットネス評価、スポーツパフォーマンス評価など、多角的な視点から評価技術を身につけ、実践を通じて理解を深めることを目的とする。	1・前	30	1	△		○	○			○	
42	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
43	○			健康づくり運動の実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
44	○			テーピングテクニックⅠ	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
45			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
46	○			テーピングテクニックⅡ	基本のテーピング技術はもちろんのこと、トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピング技術の習得を目指す。	2・前	30	1			○	○			○	
47	○			JATI実践対策	日本トレーニング指導者協会(JATI)の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	2			○	△	○		○	○
48	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	2			○		○		○	
49	○			トレーニングⅠ	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得・クライアントに合わせた適切な指導ができる。又、現場を重視し計画的な指導や、機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができる事を目標とする。	2・通	60	2			○	○			○	
50			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○	
51	○			スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を経験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	3・前	30	1			○	○			○	○

52	○			トレーニングⅡ	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得・クライアントに合わせた適切な指導ができる。又、現場を重視し計画的な指導や、機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができる事を目標とする。	3・通	60	2				○	○			○	
53	○			テーピングテクニックⅢ	競技特性に応じて求められる頻度の高い部位別・障害別テーピング法の習得を目的・目標とする。	3・通	60	2				○	○			○	
54	○			トレーニングプログラムの立案と実践	各競技種目の特性や個人の目的に応じたパフォーマンス向上を図るトレーニングプログラムを立案し実践する。	3・通	60	4	○				○			○	
55	○			トレーニング評価と指導	実施したトレーニングの評価方法やその評価を基にしたトレーニング内容改善に関する考え方を身につけ、実践できることを目指す。	3・通	60	2				○	○				○
56			○	スノーボード・スキー実習Ⅲ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	3・集	60	2				○			○	○	
57	○			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○				○			○	
58	○			カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△				○	○	
59	○			就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	2・集	30	1	△	○	△	○			○		○
60	○			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○				○			○	
61	○			カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1		○	△				○	○	
62	○			ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	2・後	30	2	○				○			○	○
63	○			就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・後	30	2	○				○			○	
64	○			コミュニケーションⅢ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	3・集	30	2	○				○			○	
65	○			カレッジイベントⅢ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	3・集	30	1		○	△				○	○	

66	○		情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	3・通	60	4	○			○			○	
67		○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	3・通	60	4	○		△	○			○	
68	○		特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		○
69	○		見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
70	○		トレーナー総合実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○
71	○		トレーナー総合実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	30	1			○	○	○	○	○	○
72	○		トレーナー総合実習Ⅲ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	2・集	30	1			○	○	○	○	○	○
73	○		トレーナー総合実習Ⅳ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	2・集	30	1			○	○	○	○	○	○
74	○		トレーナー総合実践Ⅰ	トレーナー現場に帯同し、必要に応じて検査・測定と評価が出来ることを目的とする。	3・集	60	2			○	○	○	○	○	○
75	○		トレーナー総合実践Ⅱ	トレーナー現場で検査・測定と評価を実施し、選手に説明出来ることを目標とする。	3・集	60	2			○	○	○	○	○	○
76		○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
77		○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
78		○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
79		○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
80		○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
81		○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
82		○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		

83			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
84			○	三年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		
85			○	三年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		
86			○	三年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		
87			○	ボランティア活動Ⅲ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	3・集	30	1	△		○		○	○		
合計					87 科目			3810			単位(単位時間)					

卒業要件及び履修方法					授業期間等	
卒業要件:	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。				1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。				1 学期の授業期間	17 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（新カリキュラム）

(専門課程 スポーツトレーナー学科 メディカルトレーナーコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			トレーナーの役割	日本のトレーナーの歴史と位置付けを理解し、諸外国のトレーナーに相当する業務や資格制度・活動状況に触れ、活動する上での各スタッフの構成やその役割を理解する。特にチームスタッフとの連携協力の重要性などの理解、社会的な立場と秩序、貢献、倫理について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			測定と評価	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。測定と評価に必要な知識・実技能力を修得する。測定と評価結果についての的確な解釈ができる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
3	○			スポーツと指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			身体の解剖と機能Ⅰ	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅰ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			スポーツコンディショニングⅠ	コンディショニング要素のうち、「身体的因子」に該当する項目を中心に学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			リコンディショニングⅠ	スポーツの現場において、身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望ましい状態に導く為に必要な基礎知識を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
9	○			スポーツと救急対応	可能な限り、現場での安全を確保すること、又、現場で起こり得る様々な事象に対し冷静に判断し、最良の救急処置を施せる知識と実践能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	

10	○			救急処置法 特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	
11	○			検定対策Ⅰ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○			○		○		
12	○			検定対策Ⅱ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・後	30	2	○			○		○		
13	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに関与してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○			スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識(けが、障害、疾病)など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		
15	○			健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○			健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
17	○			JATI 理論対策	日本トレーニング指導者協会(JATI)の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	
18	○			健康づくり運動 の理論	「健康づくり」を目的とした運動を幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。	2・通	60	4	○			○		○		
19	○			生活習慣病の知識	生活習慣病の病態、危険因子、予防や治療について理解を深める。又、スポーツ指導者やトレーナーとして、一般層から高齢者まで幅広い対象者へと対応できるよう視野を広く持ち、知識の幅を広げる。	2・通	60	4	○			○			○	○
20	○			運動療法学Ⅰ	運動に伴って生じる生体内での生理反応についての基礎を学び、科学的根拠に基づいた運動療法を処方・実践するための基礎的知識を習得する。	2・通	60	4	○			○			○	
21	○			身体の解剖と機能Ⅱ	1年次の内容の復習及び、AT教本の内容の確認。よりレベルの高い技術を提供・指導できるよう、生理学(運動生理学)の内容を中心に学習する。	2・通	60	4	○			○			○	

22	○		検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○		○		
23	○		検定対策Ⅳ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・後	30	2	○			○		○		
24	○		スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	3・前	30	2	○			○			○	○
25	○		運動療法学Ⅱ	代表的疾患に用いられる関節可動域維持・拡大運動の手段について学び、対象者の筋力低下の程度に応じた筋力増強トレーニングについても学ぶ。また、バランス機能の改善、有酸素運動を中心とした運動処方について学ぶ。	3・前	30	2	○			○			○	
26	○		メディカルリハビリテーション	1、2年次に学んだものをベースとして、外傷・障害・疾患ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションについて学び、日常生活復帰プログラムを立案し、指導出来るようにする。	3・通	60	4	○		△				○	
27	○		障がいとスポーツ	障がい者の心身を理解し、障がい者に対するスポーツ・運動指導技術や導入の仕方を習得する。	3・通	60	4	○			○		○		
28	○		体力測定と評価	「体力測定と評価」について幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。健康運動指導士筆記試験合格を目指す。	3・通	60	4	○			○		○		
29	○		スポーツコンディショニングⅡ	様々な競技の特性を理解し、適切なコンディショニングプログラムの立案、実施、指導能力の習得を目指す。	3・通	60	4	○			○		○		
30	○		スポーツと研究	スポーツに関する身近な疑問や課題をテーマに調査・発表を行い、研究の基本的な考え方や方法を学ぶ。主体的学習を通じて探究心と表現力を養う。	3・通	60	4	○			○		○		
31	○		検定対策Ⅴ	健康運動指導士検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・通	60	4	○			○		○		
32		○	検定対策Ⅵ	健康運動指導士検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・集	30	2	○			○		○		
33		○	JATI トレーニング 指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為の対策授業とする。	2・3・集	30	2	○			○		○	○	
34		○	スポーツ プログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○		○		
35		○	BRSO対策	検定試験(BRSO)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○		△	○			○	○

36	○		ストレッチ	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	1・前	30	1			○	○			○	○
37	○		各種評価方法の基礎	アスレティックトレーナーとして必要な基本的な評価方法について学ぶ。身体機能評価、動作評価、フィットネス評価、スポーツパフォーマンス評価など、多角的な視点から評価技術を身につけ、実践を通じて理解を深めることを目的とする。	1・前	30	1	○		△	○			○	
38	○		ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
39	○		健康づくり運動の実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
40	○		テーピングテクニックⅠ	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
41		○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
42	○		健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	2			○	○		○		
43	○		JATI実践対策	日本トレーニング指導者協会(JATI)の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	2		○	△	○		○	○	
44	○		メディカルフィットネストレーニング	疾病予防やリハビリ後の運動指導に必要な知識と実践方法を学び、安全で効果的なトレーニングプログラムの立案・実施能力を養う。	2・通	60	2	○		○	○			○	
45		○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○	
46	○		テーピングテクニックⅡ	基本のテーピング技術はもちろんのこと、トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピング技術の習得を目指す。	3・前	30	1			○	○		○		
47	○		スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	3・前	30	1			○	○			○	○

48	○		健康づくり運動 の実践	「健康づくり」を目的とした運動実践者に対して、その目的に応じた運動指導ができるようになることを目指す。	3・通	60	2			○	○			○	
49	○		各種予防運動 の実践	肥満や生活習慣病、フレイル等の疾病・身体不調を予防するための運動処方について学びその実践ができることを目指す。	3・通	60	2			○	○			○	○
50	○		トレーニング	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得・クライアントに合わせた適切な指導ができる。又、現場を重視し計画的な指導や、機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができる事を目標とする。	3・通	60	2			○	○			○	
51		○	スノーボード・スキー実習Ⅲ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	3・集	60	2			○		○	○	○	
52	○		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○		
53	○		カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△		○	○		
54	○		就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	2・集	30	1	△	○	△	○		○		○
55	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○		
56	○		カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1		○	△		○	○		
57	○		ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
58	○		就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・後	30	2	○			○		○		
59	○		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	3・集	30	2	○			○		○		
60	○		カレッジイベントⅢ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	3・集	30	1		○	△		○	○		
61	○		情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	3・通	60	4	○		△	○			○	

62			○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	3・通	60	4	○		△	○			○	
63	○			特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
64	○			見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
65	○			トレーナー総合実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○
66	○			トレーナー総合実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	30	1			○	○	○	○	○	○
67	○			メディカルフィットネス実習Ⅰ	予防医学の観点を含めたメディカルフィットネス現場にて、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○	○	○
68	○			メディカルフィットネス実習Ⅱ	提携企業の現場において、メディカルフィットネストレーナーとしての実践的業務を体験し、専門知識の応用力や指導者としての実務スキルを養う。	3・通	60	2			○	○		○	○	○
69			○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
70			○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
71			○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
72			○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
73			○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
74			○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
75			○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
76			○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
77			○	三年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		

78		○	三年次研究 課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3 ・ 集	60	4	○			○		○		
79		○	三年次研究 課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3 ・ 集	60	4	○			○		○		
80		○	ボランティア活動 Ⅲ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	3 ・ 集	30	1	△		○		○	○		
合計				80 科目			3690			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。			1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。			1 学期の授業期間	17 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（新カリキュラム）

(専門課程 スポーツトレーナー学科 上級パーソナルトレーナーコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			トレーナーの役割	日本のトレーナーの歴史と位置付けを理解し、諸外国のトレーナーに相当する業務や資格制度・活動状況に触れ、活動する上での各スタッフの構成やその役割を理解する。特にチームスタッフとの連携協力の重要性などの理解、社会的な立場と秩序、貢献、倫理について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			測定と評価	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。測定と評価に必要な知識・実技能力を修得する。測定と評価結果についての的確な解釈ができる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
3	○			スポーツと指導者Ⅰ	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○			○	
4	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
5	○			身体の解剖と機能Ⅰ	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅰ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			スポーツコンディショニングⅠ	コンディショニング要素のうち、「身体的因子」に該当する項目を中心に学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			リコンディショニングⅠ	スポーツの現場において、身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望ましい状態に導く為に必要な基礎知識を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
9	○			スポーツと救急対応	可能な限り、現場での安全を確保すること、又、現場で起こり得る様々な事象に対し冷静に判断し、最良の救急処置を施せる知識と実践能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
10	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○		○	○	

11	○		検定対策Ⅰ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○			○		○		
12	○		検定対策Ⅱ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・後	30	2	○			○		○		
13	○		スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに関与してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
14	○		スポーツと指導者Ⅱ	スポーツ指導を行う際に必要な事項について学習する。スポーツ現場において対象者のそれぞれの特性を把握し、それに基づいた指導やトレーニング方法、スポーツ栄養、医学的知識(けが、障害、疾病)など、幅広い知識を習得する。	2・前	30	2	○			○		○		
15	○		健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
16	○		健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる 為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
17	○		JATI 理論対策	日本トレーニング指導者協会(JATI)の理論編試験対策として、運動生理学・トレーニング理論・指導原則を体系的に学び、資格取得に必要な知識の定着と応用力を養う。	2・前	30	2	○			○		○	○	
18	○		身体の解剖と機能Ⅱ	1年次の内容の復習及び、AT教本の内容の確認。よりレベルの高い技術を提供・指導できるよう、生理学(運動生理学)の内容を中心に学習する。	2・通	60	4	○			○			○	
19	○		検定対策Ⅲ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○			○	
20	○		検定対策Ⅳ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・後	30	2	○			○		○		
21	○		スポーツ栄養学	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	3・前	30	2	○			○			○	○
22	○		生活習慣病の知識	生活習慣病の病態、危険因子、予防や治療について理解を深める。又、スポーツ指導者やトレーナーとして、一般層から高齢者まで幅広い対象者へと対応できるよう視野を広く持ち、知識の幅を広げる。	3・通	60	4	○			○			○	○

23	○		障がいとスポーツ	障がい者の心身を理解し、障がい者に対するスポーツ・運動指導技術や導入の仕方を習得する。	3・通	60	4	○			○		○		
24	○		スポーツコンディショニングⅡ	様々な競技の特性を理解し、適切なコンディショニングプログラムの立案、実施、指導能力の習得を目指す。	3・通	60	4	○			○		○		
25	○		スポーツと研究	スポーツに関する身近な疑問や課題をテーマに調査・発表を行い、研究の基本的な考え方や方法を学ぶ。主体的学習を通じて探究心と表現力を養う。	3・通	60	4	○			○		○		
26		○	ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。 各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。 日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員合格を目指す。	3・前	30	2	○			○		○		
27	○		検定対策Ⅴ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・通	60	4	○			○			○	
28		○	検定対策Ⅵ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・集	30	2	○			○		○		
29		○	ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験(ジュニアスポーツ指導員)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○		○		
30		○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○		○		
31		○	BRSO対策	検定試験(BRSO)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○		△	○			○	○
32	○		ストレッチ	基礎解剖学を理解し、直接人の身体に触れ筋肉の起始停止にそって施術を行えるようにする。	1・前	30	1			○	○			○	○
33	○		各種評価方法の基礎	アスレティックトレーナーとして必要な基本的な評価方法について学ぶ。身体機能評価、動作評価、フィットネス評価、スポーツパフォーマンス評価など、多角的な視点から評価技術を身につけ、実践を通じて理解を深めることを目的とする。	1・前	30	1	○		△	○			○	
34	○		ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
35	○		健康づくり運動の実際	基礎的水中運動、エアロビックダンスの安全で適切な指導方法について実習を通して学ぶ。	1・通	60	2			○	○			○	
36	○		テーピングテクニックⅠ	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・通	60	2			○	○			○	

37			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスキーマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2				○		○	○	○	
38	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	2				○	○		○		
39	○			JATI実践対策	日本トレーニング指導者協会(JATI)の実践編試験対策として、評価法・プログラム作成・指導スキルについて学び、現場で求められる即応力と合格力を高める。	2・前	30	2			○	△	○		○	○	
40	○			フィジカルトレーニングⅠ	自身のフィジカル能力向上、スポーツ動作に活かせるトレーニングの実践。スポーツにおける基本的動作に必要なフィジカル能力向上のトレーニングが実践出来るようになる。	2・通	60	2				○	○			○	○
41	○			ボディメイク実践	自らボディメイク(トレーニング、減量等)を実践し、美しい身体作りをする。見た目上美しい身体作りを実践・指導できる。	2・通	60	2				○	○			○	
42	○			効果測定とフィードバック	トレーニング効果を評価するための測定方法を学び、得られたデータをもとに的確なフィードバックを行う力を養う。指導計画の改善につなげる実践力を培う。	2・通	60	2				○	○			○	
43	○			各種トレーニング法の実践	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2				○	○			○	○
44			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスキーマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2				○		○	○	○	
45	○			スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	3・前	30	1				○	○			○	○
46	○			テーピングテクニックⅡ	基本のテーピング技術はもちろんのこと、トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピング技術の習得を目指す。	3・前	30	1				○	○		○		
47	○			パーソナルトレーナー実践	パーソナルトレーナーとして必要な知識やスキルを身につけることを目的とする。	3・通	60	2				○	○			○	○
48	○			フィジカルトレーニングⅡ	スポーツにおけるフィジカル能力向上のためのトレーニング立案、指導実践を行い、指導現場で即戦力となる人材を目指す。	3・通	60	2				○	○			○	○
49	○			フィジカルコンディショニング	身体的不調からの回復を目的としたコンディショニング方法について学び、その実践ができるよう理解を深める。	3・通	60	2				○	○			○	○

50		○	スノーボード・スキー実習Ⅲ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	3・集	60	2			○		○	○	○		
51	○		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○		○			
52	○		カレッジイベントⅠ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1		○	△		○	○			
53	○		就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	2・集	30	1	△	○	△	○		○			○
54	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○		○			
55	○		カレッジイベントⅡ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1		○	△		○	○			
56	○		ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	2・後	30	2	○			○				○	
57	○		就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・後	30	2	○			○		○			
58	○		スポーツビジネス論	将来的な独立・起業を視野に入れ、スポーツビジネスの現状やこれまでの道程について学び、その構造について理解する。	3・前	30	2	○			○				○	
59	○		スポーツマーケティング論	将来的な独立・起業を視野に入れ、スポーツ業界におけるマーケティング手法について学び、自らのビジネスを成功に導く為の基礎的知識を修得する。	3・前	30	2	○			○				○	
60	○		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	3・集	30	2	○			○		○			
61	○		カレッジイベントⅢ	校内体育大会、学園祭、大運動会等の各種イベントの企画・運営・参加。	3・集	30	1		○	△		○	○			
62	○		情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	3・通	60	4	○		△	○				○	
63		○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	3・通	60	4	○		△	○				○	

64	○		特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○	○	○						
65	○		見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○	○	○	○	○				
66	○		トレーナー総合実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○			
67	○		トレーナー総合実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	30	1			○	○	○	○	○	○			
68	○		パーソナルトレーナー実習Ⅰ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、指導に活かすことを目的とする。	2・通	60	2			○	○				○	○		
69	○		パーソナルトレーナー実習Ⅱ	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び活かすことを目的とする。	3・通	60	2			○	○				○	○		
70		○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○					
71		○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○					
72		○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○					
73		○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○					
74		○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○					
75		○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○					
76		○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○					
77		○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○					
78		○	三年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○					
79		○	三年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○					
80		○	三年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○					

81			○	ボランティア活動Ⅲ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	3・集	30	1	△		○		○	○		
合計					81 科目			3690			単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法					授業期間等	
卒業要件：	教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。				1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。				1 学期の授業期間	17 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																																			
北海道スポーツ専門学校		平成4年12月4日		滝本 玲		〒065－0011 北海道札幌市東区北11条東6丁目1番30号 (住所) 北海道札幌市東区北11条東6丁目1番30号 (電話) 011－753－7073																																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																																			
学校法人吉田学園		昭和53年10月31日		吉田 祐樹		〒060-0063 (住所) 北海道札幌市中央区南3条西1丁目15番地 (電話) 011-272-6070																																																			
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																															
文化・教養		専門課程		スポーツトレーナー学科		平成29(2017)年度		－		平成29(2017)年度																																															
学科の目的		本学科は、スポーツや医療・福祉の現場等で人々の健康を支援することができ、パフォーマンスを発揮するためのコンディショニング・リコンディショニング、トレーニング、日常生活復帰に向けた機能改善エクササイズを、個人または集団に指導できる人材育成を目的とする。																																																							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		■主な取得可能資格：アスレティックトレーナー、健康運動指導士、トレーニング指導者、健康運動実践指導者、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、水泳コーチ1、エアロビクコーチ1																																																							
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																																											
3年		昼間		※単位時間、単位いずれかに記入		2,700 単位時間 － 単位		2,820 単位時間 － 単位		0 単位時間 － 単位		420 単位時間 － 単位		0 単位時間 － 単位		990 単位時間 － 単位																																									
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																																																	
210 人		141 人		0 人		0 %		8 %																																																	
就職等の状況		■卒業者数(C) : 42 人 ■就職希望者数(D) : 41 人 ■就職者数(E) : 41 人 ■地元就職者数(F) : 38 人 ■就職率(E/D) : 100 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 93 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 98 % ■進学者数 : 1 人 ■その他 : 人  (令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) スポーツトレーナー、スポーツインストラクター、医療福祉施設、運動指導員等																																																							
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載  評価団体：－ 受審年月：－ 評価結果を掲載したホームページURL－																																																							
当該学科のホームページURL		https://www.yoshida-sports.jp/																																																							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A：単位時間による算定) <table><tr><td colspan="2">総授業時数</td><td>4,110 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>510 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち必修授業時数</td><td>480 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>480 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>30 単位時間</td></tr></table> (B：単位数による算定) <table><tr><td colspan="2">総単位数</td><td>－ 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>－ 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>－ 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち必修単位数</td><td>－ 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>－ 単位</td></tr><tr><td colspan="2">うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>－ 単位</td></tr><tr><td colspan="2">(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>－ 単位</td></tr></table>														総授業時数		4,110 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		510 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間	うち必修授業時数		480 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		480 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		30 単位時間	総単位数		－ 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		－ 単位	うち企業等と連携した演習の単位数		－ 単位	うち必修単位数		－ 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		－ 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数		－ 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		－ 単位
総授業時数		4,110 単位時間																																																							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		510 単位時間																																																							
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間																																																							
うち必修授業時数		480 単位時間																																																							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		480 単位時間																																																							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間																																																							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		30 単位時間																																																							
総単位数		－ 単位																																																							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		－ 単位																																																							
うち企業等と連携した演習の単位数		－ 単位																																																							
うち必修単位数		－ 単位																																																							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		－ 単位																																																							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		－ 単位																																																							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		－ 単位																																																							
教員の属性(専任教員について記入)		<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>7 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>2 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>1 人</td></tr><tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>10 人</td></tr></table> <table><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td>7 人</td></tr></table>														① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	7 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計		10 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	7 人																						
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	7 人																																																							
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2 人																																																							
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																																							
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人																																																							
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																																							
計		10 人																																																							
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	7 人																																																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
スポーツトレーナー学科では、実践的かつ専門的な職業教育を実践する為、教育課程編成委員会による意見を尊重し、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目開設、授業内容・実施方法の改善・工夫等)等に活かすことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

①複数名の第三者的視点に立った学外委員との意見交換が期待できるものであり、実践的かつ専門的な職業教育の実施に向け、実践教育課程の編成に活かす為、次の事項について議論し、学校・学科に提言を行う。

・業界における人材の専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性に関する事項

・実務に必要な最新の知識・技術・技能に関する事項

・学則の教育課程に関する事項

・教育課程に基づくシラバスに関する事項

・実習・演習等に関する事項

・その他、職業教育に関する事項

②教育課程編成委員会の提言等を踏まえ、学科会議にて付議・検討を行い、授業科目の追加や授業内容・方法の改善・工夫を行う。なお、学則変更を伴う教育課程の変更については、理事会の決議を経て行われる。また、シラバス・実習・演習に関する変更については、校長の決裁を経て行われる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	③
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	③
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	③
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局 次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	①
滝本 玲	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校校長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	—
大森 達也	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校副校長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日(2年)	—
藤田 真	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 学科長	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日(2年)	—
今北 雄太	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 副学科長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	—
喜多 奎介	学校法人吉田学園 北海道スポーツ専門学校 教員	令和 7年4月1日～ 令和 9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年 8月30日 15:00～16:30

第2回 令和7年 2月14日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各種団体の養成認定校として認定を受ける為に必要な学びを継続しつつも、より実践的なスキルが身につく学びが最大化されるよう、実技・実習に重きを置いた教育課程の整備を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 事業委託契約書による連携を基本とし、実践的かつ即戦力となり得る技術習得を目指す為に連携を行うもの			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 スポーツ業界の第一線で活躍するインストラクター、管理栄養士、トレーナー（アスレティックトレーナー、リラクゼーションセラピスト、鍼灸師、柔道整復師等）から業界動向も踏まえ、それに必要な最新の知識、技術を学び、時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスポーツ指導者を育てる。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
スポーツ栄養学	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	株式会社ウェルネスプランニング
リコンディショニングⅢ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	今日における機能的・体力的問題に対して、課題を解消するためのリコンディショニングプログラム、計画を考案し実践する。また、障害予防の観点からのアプローチも併せて理解する。	鍼灸サロン ビーグラン
スポーツマッサージ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	株式会社グローバルアンビシャス
見学実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	株式会社北海道日本ハムファイターズ、株式会社コンサドーレ、北海道イエロースターズ、レバンガ北海道
トレーナー総合実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	株式会社トレリハ、Veitu石狩、学校法人酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校、鍼灸サロンビーグラン
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 教員は、学校法人吉田学園研修規程により次に掲げる各研修を通し、現在就いている業務又は将来就くことが予想される業務の遂行に必要な知識・技術・技能等を修得するとともに、その他その遂行に必要な能力・資質等の向上を図ることを基本方針とする。 ・専門学校教育研修会 ・階層別研修 ・外部研修等（学会等を含む）			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名：	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会		連携企業等：公認AT北海道協議会 公認アスレティックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
期間：	令和6年10月20日		対象：
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		

研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和7年3月16日	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	
期間:	令和6年8月 9日	対象:	正職員・嘱託職員
内容	テーマ「今、改めて「教師力」を考える ～教員とはどうあるべきか～」 分科会「ICTやアクティブ・ラーニングの手法を活用した魅力ある授業づくり、信頼関係を深め、問題の解決や未然防止に役立つ学生指導・支援の方策、職業観や勤労観、進路意識を高める指導方法や教育課程のあり方、発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応のあり方」		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー北海道協議会研修会	連携企業等:	公認AT北海道協議会 公認アスレティックトレーナー、トレーナー活動を行っている者、医療関係者
期間:	令和7年11月23日	対象:	
内容	知識・技術の研鑽を図ることによって、公認アスレティックトレーナーとしての資質の向上に努める		
研修名:	健康運動実践指導者養成校養成講座主任教員研修会	連携企業等:	健康・体力づくり事業財団
期間:	令和8年3月	対象:	養成校主任教員及び担当教員
内容	健康運動実践指導者資格取得のための活動や認定試験評価の総括及び結果等についての理解を深める		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	吉田学園専門学校教育研修会	連携企業等:	AVINTON ジャパン株式会社 他
期間:	令和7年8月 8日	対象:	正職員・嘱託職員
内容	テーマ「学生の未来をひらく専門学校教育～学生理解と効率的な業務の推進～」 分科会「生成 AI の理解と活用(初級編)」、「高等学校における進路指導の理解と専門学校入学後の効果的な学生支援」、「発達障がいなど、特別な配慮や支援を必要とする学生への対応」		
研修名:	文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教育能力認定委員会
期間:	令和7年8月 1日	対象:	公益社団法人 北海道私立専修学校各種学校連合会会員校の教職員
内容	変化する高校生の理解と専門学校教育の展開～社会人基礎力の育成を目指して～		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
学校関係者評価委員会は、学校が行った次の事項に対する自己点検・評価の結果に基づき評価を行い、学校は、当該委員会においての意見・評価を、自己点検・評価の結果と共に真摯に受け止め、必要な改善に努めるとともに、学校運営や教育実践力等の向上を図ることを基本方針とする。			
・教育理念・目標 ・学校運営 ・教育活動 ・学修成果・教育成果 ・学生支援 ・教育環境 ・学生の受け入れ募集 ・教育の内部質保証システム ・財務 ・社会貢献・地域貢献 ・国際交流			

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	①理念・目的・育人人材像(教育理念(建学の精神)・目的・目標、育人人材像等が明文化されているか。職業教育機関として専修学校教育に必要とされる考え方や指針、内容等が盛り込まれているか) ②教育の特色(社会や関連業界のニーズを踏まえた将来構想を描いているか)
(2)学校運営	①運営方針(運営方針は教育理念等に沿ったものになっているか) ②事業計画(事業計画を作成し、執行しているか) ③運営組織(運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか) ④教職員の評価・育成(教員及び職員の能力評価・能力向上に向けた取り組みを行っているか) ⑤人事・給与制度(人事・給与に関する制度を確立しているか) ⑥情報システム(情報システム化等による業務の効率化が図られているか)
(3)教育活動	①目標の設定(教育理念、教育目的および育人人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか) ②教育方法・評価等(各学科の教育目標、育人人材像に向けて、体系的なカリキュラム作成などの取組がなされているか) ③成績評価・単位認定等(成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか) ④資格・免許取得の指導体制(資格・免許取得のための指導体制があるか) ⑤キャリア教育等(基礎的・汎用的能力(① 人間関係形成・社会形成能力、② 自己理解・自己管理能力、③ 課題対応能力、④ キャリアプランニング能力)を身につけるための取組が実施されているか)
(4)学修成果	①学修成果(各学科の教育目標、育人人材像に向けてその達成への取り組みと評価がされているか) ②就職率(就職率の向上が図られているか) ③資格・免許の取得率(資格・免許取得率の向上が図られているか) ④社会的評価(卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか)
(5)学生支援	①修学支援(学生に対する修学支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか) ②就職等進路(就職・進学指導に関する支援体制は整備され、有効に機能しているか) ③学生相談(学生相談に関する体制は整備されているか) ④学生生活(学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。学生の健康を担う組織体制はあるか。生活環境支援体制を整備しているか) ⑤中途退学への対応(退学率の低減が図られているか) ⑥保証人(保護者)との連携(保証人との連携体制を構築しているか) ⑦卒業生・社会人支援(卒業生の動向を把握しているか。社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか)
(6)教育環境	①施設・設備等(施設、設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか) ②学外実習、インターンシップ等(校外の実習、インターンシップ、海外研修等について、十分な教育体制を整備しているか) ③防災・安全管理(防災・安全管理に関する体制を整備しているか。防災訓練等を実施しているか)
(7)学生の受入れ募集	①学学生募集活動(学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。社会人入学生、留学生、障がい者等、多様な学生の受入れについて方針を明確にしているか) ②入学選考(入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか) ③学納金(学納金は妥当なものとなっているか)
(8)財務	①財務基盤(学校の中長期的な財務基盤は安定しているといえるか) ②予算・収支計画(予算及び収支計画は有効かつ妥当か。予算及び収支計画に基づき、適正に執行管理を行っているか) ③監査(財務について会計監査が適正におこなわれているか) ④財務情報の公開(私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか)

(9)法令等の遵守	①法関係法令、設置基準等の遵守(法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行なっているか) ②個人情報保護(個人情報に関する規程を整備し、個人情報に対する対応を取っているか) ③学校評価(自己評価、学校関係者評価の実施体制を整備しているか) ④改革・改善(各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制を確立して改革・改善のためのシステムが構築されているか) ⑤教育情報の公開(教育活動に関する情報公開を積極的に行っているか)
(10)社会貢献・地域貢献	①社会貢献・地域貢献(学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか) ②ボランティア活動(学生のボランティア活動を奨励・支援しているか)
(11)国際交流	①留学生の受入れ・海外への留学(留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか)

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・評価より、「資格取得率」「地域貢献」「教員・学生のモチベーション維持・向上」「学生募集」等に関する意見が寄せられた。

この意見を踏まえ、その改善を図るべく、取り組みの重要度・優先度を設定した後プロジェクトチーム化を図り、業界や地域のニーズ分析や、他専門学校動向調査(特色、教育課程の実態、教育実績、部活動実績、その他)等に取り組むこととした。社会に求められる即戦力人材の育成がより加速するよう、より良い学校運営の在り方を模索していく。

### (4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
小野寺 隆彦	一般社団法人 日本フットサルトップリーグ専務理事	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
金子 知	社会医療法人朋仁会 整形外科北新病院 スポーツ医科学センター長 リハビリテーション部長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員
中西 康隆	ていね駅南口治療室 代表	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	卒業生
吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会 事務局次長	令和 6年4月1日～ 令和 8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

### (5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/>

公表時期: 令和7年10月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

### (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学科目的に掲げた職業人の育成には、学校関係者との信頼関係を築き、連携・協力体制の構築が必要不可欠であり、その為に適切なツールにより、積極的な情報提供を行うことを基本方針とする。

### (2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の沿革・歴史 ・設立と教育目標、理念、教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等
(2)各学科等の教育	・定員数、在学生数 ・カリキュラム(授業概要、授業時数等) ・進級・卒業要件等(成績評価基準、進級・卒業の認定基準等) ・学習の成果として取得を目指す資格等 ・卒業者数、卒業後の進路(主な就職先、就職者数、就職率等)
(3)教職員	・教員数

(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職支援等への取り組み状況 ・現場実習等の取り組み状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況 ・部活動の活動状況および実績 ・施設・設備等の教育環境
(6)学生の生活支援	・学生・生活指導への取り組み状況 ・カウンセリングの体制整備等に関する状況
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金の取扱い(学費・納入時期等) ・活用できる修学支援の内容(奨学金、経済的支援等制度、貸付金の案内等)
(8)学校の財務	・事業報告書 ・収支計算書 ・貸借対照表 ・監査報告書
(9)学校評価	・自己点検・評価、学校関係者評価の結果 ・評価結果を踏まえた改善方策等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(                      ))

URL: <https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/sports/>

公表時期: 令和7年10月31日

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

(専門課程　スポーツトレーナー学科　アスレティックトレーナーコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに発展してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	○
5	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			身体の解剖と機能Ⅰ	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅰ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			トレーナーの役割	日本のトレーナーの歴史と位置付けを理解し、諸外国のトレーナーに相当する業務や資格制度・活動状況に触れ、活動する上での各スタッフの構成やその役割を理解する。特にチームスタッフとの連携協力の重要性などの理解、社会的な立場と秩序、貢献、倫理について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
9	○			スポーツコンディショニングⅠ	コンディショニング要素のうち、「身体的因子」に該当する項目を中心に学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
10	○			リコンディショニングⅠ	スポーツの現場において、身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望ましい状態に導く為に必要な基礎知識を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
11	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
12	○			スポーツと救急対応	可能な限り、現場での安全を確保すること、又、現場で起こり得る様々な事象に対し冷静に判断し、最良の救急処置を施せる知識と実践能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
13	○			測定と評価	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。測定と評価に必要な知識・実技能力を修得する。測定と評価結果についての的確な解釈ができる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	

14	○		AT対策Ⅰ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○				○		○		
15	○		AT対策Ⅱ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○				○		○		
16	○		健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○				○		○		
17	○		健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○				○		○		
18			スポーツの安全・健康管理	スポーツ現場での指導において、プレーヤーの安全を確保することは必要不可欠である。プレーヤーの健康管理も含め安全にスポーツ実施を進める為の知識や方法を身につける。	2・前	30	2	○				○		○		
19	○		トレーニング科学	トレーニングを多角的側面から捉え、競技スポーツや一般層との関連を学び、様々な角度から、「科学的にトレーニングを理解」する。又、流行のトレーニング等についても検証し、分析する。	2・前	30	2	○				○			○	
20	○		健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○				○		○		
21	○		健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○				○		○		
22	○		健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○				○		○		
23	○		スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅱ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的な知識を基に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障害の病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	2・集	30	2	○				○			○	
24	○		リコンディショニングⅡ	特殊環境下や各競技特性に合わせたリコンディショニングについての知識を習得し理解を深める。	2・前	30	2	○				○			○	
25	○		スポーツ医学 内科	スポーツ指導者にとって必要な医学的知識の基礎を学習するとともに、内科疾患について理解を深める。	2・集	30	2	○				○			○	
26	○		バイオメカニクス	身体運動に関するバイオメカニクスによる理解。(骨格の動きや筋の作用に伴う力の発生とその有効性について、理解を深める)	2・前	30	2	○				○			○	
27	○		スポーツコンディショニングⅡ	様々な競技の特性を理解し、適切なコンディショニングプログラムの立案、実施、指導能力の習得を目指す。	2・前	30	2	○				○			○	
28	○		身体の解剖と機能Ⅱ	1年次の内容の復習及び、AT教本の内容の確認。よりレベルの高い技術を提供・指導できるよう、生理学(運動生理学)の内容を中心に学習する。	2・通	60	4	○				○			○	
29	○		AT対策Ⅲ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○				○			○	
30	○		AT対策Ⅳ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○				○		○		
31	○		各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	3・後	30	2	○				○		○		

32	○			スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	3・後	30	2	○		△	○	○		○	○
33	○			運動療法学Ⅰ	運動に伴って生じる生体内での生理反応についての基礎を学び、科学的根拠に基づいた運動療法を処方・実践するための基礎的知識を習得する。	3・通	60	4	○			○			○	
34	○			リコンディショニングⅢ	あらゆる要因によって生じた身体レベルの低下から最高のスポーツパフォーマンスを引き出す為のプログラムを立案し実践していく。	3・通	60	4	○			○			○	
35	○			スポーツ外傷学	アスレティックトレーナーが活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的な知識について理解する。その為 に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障害の病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	3・通	60	4	○			○			○	
36	○			AT対策Ⅴ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・通	60	4	○			○			○	
37			○	AT対策Ⅵ	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・集	60	4	○			○			○	
38			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	3・通	60	4	○			○			○	
39			○	水泳コーチⅠ対策理論	検定試験(公認水泳コーチ1:理論試験)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○			○	
40			○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○			○	
41			○	健康運動指導士対策	健康運動指導士の資格合格を目指し、試験対策を実施する。	3・通	60	4	○			○			○	
42			○	JATI トレーニング指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○			○			○	○
43			○	BRSO対策	検定試験(BRSO)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○		△	○			○	○
44	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2				○	○		○	
45	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指すし、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1				○	○			○
46	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・後	30	1				○	○			○
47	○			テーピングテクニックⅠ	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・後	30	1				○	○		○	
48			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2				○		○	○	○
49	○			トレーニングⅠ	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得・クライアントに合わせた適切な指導ができる。又、現場を重視し計画的な指導や、機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができる事を目標とする。	2・通	60	2				○	○			○

50	○		テーピングテクニックⅡ	基本のテーピング技術はもちろんのこと、トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピング技術の習得を目指す。	2・通	60	2			○	○	○		
51	○		各種トレーニング法の実践	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○		○	○
52	○		健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1			○	○	○		
53		○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2			○		○	○	○
54	○		トレーニングⅡ	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得・クライアントに合わせた適切な指導ができる。又、現場を重視し計画的な指導や、機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができる事を目標とする。	3・通	60	2			○	○		○	
55	○		テーピングテクニックⅢ	競技特性に応じて求められる頻度の高い部位別・障害別テーピング法の習得を目的・目標とする。	3・通	60	2			○	○	○		
56	○		スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	3・前	30	1			○	○		○	○
57	○		トレーニングプログラムの立案と実践	各競技種目の特性や個人の目的に応じたパフォーマンス向上を図るトレーニングプログラムを立案し実践する。	3・通	60	4	○			○	○		
58	○		トレーニング評価と指導	実施したトレーニングの評価方法やその評価を基にしたトレーニング内容改善に関する考え方を身につけ、実践できることを目指す。	3・通	60	2			○	○	○		
59		○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	3・通	60	2			○	○	○		
60		○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験(公認水泳コーチⅠ:実技試験)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	1			○	○	○		
61		○	スノーボード・スキー実習Ⅲ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	3・集	60	2			○		○	○	
62	○		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○			○	○		
63	○		カレッジイベントⅠ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△		○	○	
64	○		就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	2・集	30	1	○		△	○	○		
65	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○			○	○		
66	○		カレッジイベントⅡ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△		○	○	

67	○		ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
68	○		就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・後	30	2	○			○		○		
69	○		情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	3・通	60	2	○			○			○	
70	○		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	3・集	30	2	○			○		○		
71	○		カレッジイベントⅢ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	3・集	30	1	○		△		○	○		
72		○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	3・通	60	4	○		△	○			○	
73	○		特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
74	○		見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
75	○		トレーナー総合実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○
76	○		トレーナー総合実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	30	1			○	○	○	○	○	○
77	○		トレーナー総合実習Ⅲ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	2・集	30	1			○	○	○	○	○	○
78	○		トレーナー総合実習Ⅳ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	2・集	30	1			○	○	○	○	○	○
79	○		トレーナー総合実践Ⅰ	トレーナー現場に帯同し、必要に応じて検査・測定と評価が出来ることを目的とする。	3・集	60	2			○	○	○	○	○	○
80	○		トレーナー総合実践Ⅱ	トレーナー現場で検査・測定と評価を実施し、選手に説明出来ることを目標とする。	3・集	60	2			○	○	○	○	○	○
81		○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
82		○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
83		○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
84		○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		
85		○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
86		○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		

87		○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○		
88		○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○		
89		○	三年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		
90		○	三年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		
91		○	三年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○		
92		○	ボランティア活動Ⅲ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	3・集	30	1	△		○		○	○		
合計					92	科目	4,110 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。		1 学期の授業期間	17 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

(専門課程　スポーツトレーナー学科　メディカルトレーナーコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに関与してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあった指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	○
5	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			身体の解剖と機能Ⅰ	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅰ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			トレーナーの役割	日本のトレーナーの歴史と位置付けを理解し、諸外国のトレーナーに相当する業務や資格制度・活動状況に触れ、活動する上での各スタッフの構成やその役割を理解する。特にチームスタッフとの連携協力の重要性などの理解、社会的な立場と秩序、貢献、倫理について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
9	○			スポーツコンディショニングⅠ	コンディショニング要素のうち、「身体的因子」に該当する項目を中心に学ぶ。	1・通	60	4	○			○		○		
10	○			リコンディショニングⅠ	スポーツの現場において、身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望ましい状態に導く為に必要な基礎知識を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
11	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
12	○			スポーツと救急対応	可能な限り、現場での安全を確保すること、又、現場で起こり得る様々な事象に対し冷静に判断し、最良の救急処置を施せる知識と実践能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
13	○			測定と評価	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。測定と評価に必要な知識・実技能力を修得する。測定と評価結果についての的確な解釈ができる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	

14	○		検定対策Ⅰ	健康運動実践指導者検定合格に向け、過去の出題傾向を健康運動指導士について学び、健康運動実践指導者合格に向けて基礎知識を習得する。	1・通	60	4	○				○		○			
15	○		検定対策Ⅱ	健康運動実践指導者の合格に向けて、必要な知識を習得する。	1・通	60	4	○				○		○			
16	○		健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○				○		○			
17	○		健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○				○		○			
18	○		健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○				○		○			
19	○		健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○				○		○			
20	○		健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○				○		○			
21	○		スポーツ医学 内科	スポーツ指導者にとって必要な医学的知識の基礎を学習するとともに、内科疾患について理解を深める。	2・集	30	2	○				○				○	
22	○		健康づくり運動の理論	「健康づくり」を目的とした運動を幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。	2・通	60	4	○				○		○			
23	○		身体の解剖と機能Ⅱ	1年次の内容の復習及び、AT教本の内容の確認。よりレベルの高い技術を提供・指導できるよう、生理学(運動生理学)の内容を中心に学習する。	2・通	60	4	○				○				○	
24	○		各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成をできるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○				○		○			
25	○		検定対策Ⅲ	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。健康運動指導士についての理解を深める。	2・通	60	4	○				○		○			
26	○		検定対策Ⅳ	健康運動指導士、健康運動実践指導者合格に必要な知識を習得する。	2・通	60	4	○				○		○			
27	○		運動療法学Ⅰ	運動に伴って生じる生体内での生理反応についての基礎を学び、科学的根拠に基づいた運動療法を処方・実践するための基礎的知識を習得する。	2・通	60	4	○				○				○	
28	○		スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	3・後	30	2	○			△	○	○			○	○
29	○		生活習慣病の知識	生活習慣病の病態、危険因子、予防や治療について理解を深める。又、スポーツ指導者やトレーナーとして、一般層から高齢者まで幅広い対象者へ対応できるよう視野を広く持ち、知識の幅を広げる。	3・通	60	4	○				○		○			
30	○		スポーツコンディショニングⅡ	様々な競技の特性を理解し、適切なコンディショニングプログラムの立案、実施、指導能力の習得を目指す。	3・通	60	4	○				○				○	
31	○		運動療法学Ⅱ	代表的疾患に用いられる関節可動域維持・拡大運動の手段について学び、対象者の筋力低下の程度に応じた筋力増強トレーニングについても学ぶ。また、バランス機能の改善、有酸素運動を中心とした運動処方について学ぶ。	3・前	30	2	○				○				○	
32	○		メディカルリハビリテーション	1、2年次に学んだものをベースとして、外傷・障害・疾患ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションについて学び、日常生活復帰プログラムを立案し、指導出来るようにする。	3・通	60	4	○			△					○	

33	○			障がいとスポーツ	障がい者の心身を理解し、障がい者に対するスポーツ・運動指導技術や導入の仕方を知得する。	3・通	60	4	○				○		○		
34	○			体力測定と評価	「体力測定と評価」について幅広く理論的に学習し、健康運動指導士が担う運動指導のあり方を理解する。健康運動指導士筆記試験合格を目指す。	3・通	60	4	○				○		○		
35	○			検定対策Ⅴ	健康運動指導士検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・通	60	4	○				○		○		
36			○	検定対策Ⅵ	健康運動指導士検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・集	60	4	○				○		○		
37			○	スイミング理論	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。公認水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。	3・通	60	4	○				○		○		
38			○	水泳コーチⅠ対策理論	検定試験(公認水泳コーチ1:理論試験)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○				○		○		
39			○	スポーツプログラマー対策	検定試験(スポーツプログラマー)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○				○		○		
40			○	JATI トレーニング指導者対策	検定試験(トレーニング指導者)合格の為の対策授業とする。	2・3・集	30	2	○				○		○		
41			○	BRSO対策	検定試験(BRSO)合格の為の対策授業とする。	3・集	30	2	○		△		○			○	○
42	○			ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2				○	○		○		
43	○			ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1				○	○			○	
44	○			ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・後	30	1				○	○			○	
45	○			テーピングテクニックⅠ	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・前	30	1				○	○			○	
46			○	スノーボード・スキー実習Ⅰ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2				○		○	○	○	
47	○			各種トレーニング法の実践	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2				○	○			○	○
48	○			健康運動実践指導者対策実技	検定試験(健康運動実践指導者:水中運動及び陸上運動実技試験)合格の為の対策授業とする。	2・前	30	1				○	○		○		
49			○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2				○		○	○	○	
50	○			テーピングテクニックⅡ	基本のテーピング技術はもちろんのこと、トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピング技術の習得を目指す。	3・通	60	2				○	○		○		

51	○		スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	3・前	30	1				○	○			○	○
52	○		トレーニング	トレーナーとして安全で効果的なエクササイズテクニック習得・クライアントに合わせた適切な指導ができる。又、現場を重視し計画的な指導や、機材を使用した分析能力向上と的確なフィードバックができる事を目標とする。	3・通	60	2				○	○			○	
53	○		健康づくり運動の実践	「健康づくり」を目的とした運動実践者に対して、その目的に応じた運動指導ができるようになることを目指す。	3・通	60	2				○	○			○	
54	○		各種予防運動の実践	肥満や生活習慣病、フレイル等の疾病・身体不調を予防するための運動処方について学びその実践ができることを目指す。	3・通	60	2				○	○			○	
55		○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	3・通	60	2				○	○			○	
56		○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験(公認水泳コーチⅠ:実技試験)合格の為に対策授業とする。	3・集	30	1				○	○			○	
57		○	スノーボード・スキー実習Ⅲ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	3・集	60	2				○				○	○
58	○		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○				○			○	
59	○		カレッジイベントⅠ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○		△				○	○	
60	○		就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	2・集	30	1	○		△		○			○	
61	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○				○			○	
62	○		カレッジイベントⅡ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○		△				○	○	
63	○		ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	2・後	30	2	○				○				○
64	○		就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・前	30	2	○				○			○	
65	○		情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	3・通	60	2	○		△		○				○
66	○		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	3・集	30	2	○				○			○	
67	○		カレッジイベントⅢ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	3・集	30	1	○		△				○	○	
68		○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	3・通	60	4	○		△		○				○

69	○		特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○						
70	○		見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。 異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○				
71	○		トレーナー総合実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○				
72	○		トレーナー総合実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	30	1			○	○	○	○	○	○				
73	○		メディカルフィットネス実習	予防医学の観点を含めたメディカルフィットネス現場にて、実践力を身につける。	2・通	60	2			○	○		○	○	○				
74		○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○						
75		○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○						
76		○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○						
77		○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○						
78		○	二年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○						
79		○	二年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○						
80		○	二年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○		○						
81		○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○						
82		○	三年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○						
83		○	三年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○						
84		○	三年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○		○						
85		○	ボランティア活動Ⅲ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	3・集	30	1	△		○		○	○						
合計					85	科目	3,900 単位(単位時間)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	17 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要（旧カリキュラム）

(専門課程 スポーツトレーナー学科 上級パーソナルトレーナーコース)																
分類				授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択	講義						演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			スポーツと社会	スポーツの概念及び文化としてのスポーツについて理解を深める。社会の中でスポーツ活動がどのような意味を持ち、歴史的にいかに関与してきたか理解する。更に、わが国のスポーツ振興政策を理解し、地域スポーツクラブ・広域スポーツセンターの機能と役割を学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			スポーツと指導者	スポーツ指導を行う場合に必要な事項について学習し、実際の指導にあたっては、対象者にあつた指導が出来るよう、幅広い知識の習得に努める。又、指導者としてあるべき姿を学習し、対象者に信頼される指導者になるよう努める。	1・通	60	4	○			○		○		
3	○			スポーツの心理	どうしてスポーツをやりたい気持ちになるのか？やる気を高めるにはどうしたらいいのか？という基本的な原理から学んでいく。又、指導する上で必要な指導の仕方(言語的指導・視覚的指導など)の効果的な方法を学習する。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			スポーツ栄養学Ⅰ	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	○
5	○			運動生理学	人体の構造と機能(生理学)と運動を結びつけ、専門知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
6	○			身体の解剖と機能Ⅰ	筋・骨格系を中心に学習する。クライアントに技術を提供・指導する際に必要になる知識を学ぶ。	1・通	60	4	○			○			○	
7	○			スポーツ 外傷・障害の基礎Ⅰ	トレーナー、スポーツ指導者が活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障がいの基礎的な知識について理解する。その為に、上肢・体幹・下肢の主なスポーツ外傷・障がいの病態、評価方法及び重篤な外傷、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得する。	1・通	60	4	○			○			○	
8	○			トレーナーの役割	日本のトレーナーの歴史と位置付けを理解し、諸外国のトレーナーに相当する業務や資格制度・活動状況に触れ、活動する上での各スタッフの構成やその役割を理解する。特にチームスタッフとの連携協力の重要性などの理解、社会的な立場と秩序、貢献、倫理について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
9	○			スポーツコンディショニングⅠ	コンディショニング要素のうち、「身体的因子」に該当する項目を中心に学ぶ。	1・通	60	4	○			○		○		
10	○			リコンディショニングⅠ	スポーツの現場において、身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望ましい状態に導く為に必要な基礎知識を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
11	○			救急処置法特別講習	手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AEDを用いた除細動などを習得する。又、日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得する。	1・集	30	1	○		△	○			○	○
12	○			スポーツと救急対応	可能な限り、現場での安全を確保すること、又、現場で起こり得る様々な事象に対し冷静に判断し、最良の救急処置を施せる知識と実践能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	

13	○		測定と評価	測定者と測定対象者の両方の立場を体験し、スポーツ指導者による測定と評価の目的・意義及び役割を理解する。測定と評価に必要な知識・実技能力を修得する。 測定と評価結果についての的確な解釈ができる力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	
14	○		検定対策Ⅰ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○			○			○	
15	○		検定対策Ⅱ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。	1・通	60	4	○			○		○		
16	○		健康運動理論Ⅰ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
17	○		健康プログラムⅠ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
18	○		健康運動理論Ⅱ	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。又、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。	2・前	30	2	○			○		○		
19	○		健康プログラムⅡ	人生における健康の意義と、正しい健康観を認識させる為、身体運動の心身の健康におよぼす効用、現代社会と運動・健康維持の必要性を説き、有識者としての要素、実践する姿勢を身につける。	2・前	30	2	○			○		○		
20	○		健康運動実践指導者対策理論	検定試験(健康運動実践指導者:筆記試験)合格の為の対策授業とする。	2・集	30	2	○			○		○		
21	○		スポーツ医学 内科	スポーツ指導者にとって必要な医学的知識の基礎を学習するとともに、内科疾患について理解を深める。	2・集	30	2	○			○			○	
22	○		身体の解剖と機能Ⅱ	1年次の内容の復習及び、AT教本の内容の確認。よりレベルの高い技術を提供・指導できるよう、生理学(運動生理学)の内容を中心に学習する。	2・通	60	4	○			○			○	
23	○		各種トレーニング法の理論とプログラム	トレーニング指導者として、科学的根拠に基づいた、筋力トレーニングのプログラム作成ができるようにする。JATI認定トレーニング指導者に必要な知識を習得する。	2・後	30	2	○			○			○	
24	○		検定対策Ⅲ	JATI認定トレーニング指導者合格に向け、知識の習得と試験問題への対応力を身につける。	2・通	60	4	○			○			○	
25	○		検定対策Ⅳ	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	2・通	60	4	○			○		○		
26	○		スポーツ栄養学Ⅱ	スポーツ栄養学の基本から、食事からの栄養の摂取方法やタイミングを理解し、スポーツ種目の特性や選手の特徴に対応した、実践的なスポーツ栄養学を学ぶ。又、授業の総括的な取り組みとして、学んだ知識を活用し「調理実習」等も実施する。	3・後	30	2	○		△	○	○		○	○
27	○		生活習慣病の知識	生活習慣病の病態、危険因子、予防や治療について理解を深める。又、スポーツ指導者やトレーナーとして、一般層から高齢者まで幅広い対象者へ対応できるよう視野を広く持ち、知識の幅を広げる。	3・通	60	4	○			○		○		
28	○		スポーツコンディショニングⅡ	様々な競技の特性を理解し、適切なコンディショニングプログラムの立案、実施、指導能力の習得を目指す。	3・通	60	4	○			○			○	

29	○		メディカルリハビリテーション	1、2年次に学んだものをベースとして、外傷・障害・疾患ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションについて学び、日常生活復帰プログラムを立案し、指導出来るようにする。	3・通	60	4	○			○			○	
30	○		障がいとスポーツ	障がい者の心身を理解し、障がい者に対するスポーツ・運動指導技術や導入の仕方を知得する。	3・通	60	4	○			○		○		
31		○	ジュニアスポーツ指導の基礎	子どもスポーツの指導者としての基礎を学ぶ。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気、運動能力を引き出すコミュニケーション方法や指導方法を学ぶ。	3・前	30	2	○			○		○		
32		○	ジュニアスポーツ指導の実際	「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。	3・後	30	2	○			○		○		
33	○		検定対策 V	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・通	60	4	○			○		○		
34		○	検定対策 VI	JATI-ATI検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題を解きながら検定本番に向けた取り組みを行う。	3・集	60	4	○			○		○		
35		○	水泳コーチ I 対策理論	検定試験（公認水泳コーチ1：理論試験）合格の為に対策授業とする。	3・集	30	2	○			○		○		
36		○	ジュニアスポーツ指導員対策	検定試験（ジュニアスポーツ指導員）合格の為に対策授業とする。	3・集	30	2	○			○		○		
37		○	スポーツプログラマー対策	検定試験（スポーツプログラマー）合格の為に対策授業とする。	3・集	30	2	○			○		○		
38		○	BRSO対策	検定試験（BRSO）合格の為に対策授業とする。	3・集	30	2	○		△	○			○	○
39	○		ベーシックトレーニング	基礎的レジスタンストレーニングエクササイズ、トレーニングマシンの適切な使用方法、マナーを理解し、安全で効果的なトレーニングスキルを身につける。	1・通	60	2			○	○			○	
40	○		ベーシックスイミング	泳ぎの基本及び4泳法の習得を目指し、指導法を学ぶと共に、水難事故の防止に必要な知識と技術を学ぶ。	1・前	30	1			○	○			○	
41	○		ベーシックエアロビックダンス	有酸素運動のひとつであるエアロビックダンスエクササイズを体験し、理解を深めることで効果を学ぶ。	1・後	30	1			○	○			○	
42	○		テーピングテクニック I	基本のテーピング技術の習得を目指す。人体各部の構造とスポーツ障害のメカニズムを理解したうえで、テキストから一定の法則を読み取り、実践力を身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
43		○	スノーボード・スキー実習 I	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	1・集	60	2			○		○	○	○	
44	○		各種トレーニング法の実際	レジスタンストレーニングをはじめとする、各種トレーニングにおけるエクササイズテクニックのガイドラインを理解し、トレーナー、インストラクターとして安全で効果的な実践方法を習得するとともに、対象者に対する指導テクニックを身につける。	2・通	60	2			○	○			○	○
45	○		健康運動実践指導者対策実技	検定試験（健康運動実践指導者：水中運動及び陸上運動実技試験）合格の為に対策授業とする。	2・前	30	1			○	○		○		

46	○		フィジカルトレーニングⅠ	自身のフィジカル能力向上、スポーツ動作に活かせるトレーニングの実践。スポーツにおける基本的動作に必要なフィジカル能力向上のトレーニングが実践出来るようになる。	2・通	60	2				○	○				○	○
47	○		ボディメイク実践Ⅰ	自らボディメイク(トレーニング、減量等)を実践し、美しい身体作りをする。見た目上美しい身体作りを実践・指導できる。	2・通	60	2				○	○				○	
48		○	スノーボード・スキー実習Ⅱ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	2・集	60	2				○			○	○	○	
49	○		テーピングテクニックⅡ	基本のテーピング技術はもちろんのこと、トレーナー、スポーツ指導者として、正確で、素早い、機能的なテーピング技術の習得を目指す。	3・通	60	2				○	○			○		
50	○		スポーツマッサージ	スポーツマッサージの効果を体験し、興味を深め、症状に合わせたマッサージの組み立て方を学ぶ。 又、スポーツマッサージを行うことの意味と効果を学び、クライアントに対して効果的なスポーツマッサージを行える技術を習得する。	3・前	30	1				○	○				○	○
51	○		フィジカルトレーニングⅡ	スポーツにおけるフィジカル能力向上のためのトレーニング立案、指導実践を行い、指導現場で即戦力となる人材を目指す。	3・通	60	2				○	○				○	○
52	○		フィジカルコンディショニング	身体的不調からの回復を目的としたコンディショニング方法について学び、その実践ができるよう理解を深める。	3・通	60	2				○	○				○	○
53	○		ボディメイク実践Ⅱ	自らボディメイク(トレーニング、減量等)を実践し、美しい身体作りをする。見た目上美しい身体作りを実践・指導できる。	3・通	60	2				○	○				○	
54	○		パーソナルトレーナー実践	パーソナルトレーナーとして必要な知識やスキルを身につけることを目的とする。	3・前	30	1				○	○			○		
55		○	ジュニアスポーツ指導実習	幼児へのスイミングレッスンの計画→実施→反省を行う事で、指導技術を習得する。 又、実際に幼児に携わる事でスイミング技術だけではなく、幼児へのスポーツ指導も学ぶ。	3・前	60	2				○	○			○		
56		○	スイミングスキル	各種泳法の技術を向上させ、模範となる泳ぎを習得する。又、効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指す。	3・通	60	2				○	○			○		
57		○	水泳コーチⅠ対策実技	検定試験(公認水泳コーチ1:実技試験)合格の為に対策授業とする。	3・集	30	1				○	○			○		
58		○	スノーボード・スキー実習Ⅲ	スノーボード・スキーにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。	3・集	60	2				○			○	○		
59	○		コミュニケーションⅠ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	1・集	30	2	○				○			○		
60	○		カレッジイベントⅠ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	1・集	30	1	○			△			○	○		
61	○		就職セミナー	就職活動に向けての準備、就職への意識づけ、意欲向上の為に、専門家やOBOG等の情報から業界動向を把握し理解を深める。	2・集	30	1	○			△	○			○		
62	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。 社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	2・集	30	2	○				○			○		
63	○		カレッジイベントⅡ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	2・集	30	1	○			△			○	○		

64	○		ビジネススキル	就職活動の開始に先立ち、社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識やビジネスマナーの理解を目的とする。就職後を見据え、社内外で信頼を得、円滑により良い人間関係を構築する為に必要となる、初歩的なビジネス技能を学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
65	○		就職実務	就職決定に向けて自分自身を振り返り、客観的視野で自己分析をできるようにする。就職活動の流れを理解し、円滑な活動へと繋げる。社会人としての考え方、対応の仕方を学び、自立へと促す。	2・前	30	2	○			○		○		
66	○		スポーツビジネス論Ⅰ	将来的な独立・起業を視野に入れ、スポーツビジネスの現状やこれまでの道程について学び、その構造について理解する。	3・前	30	2	○			○		○		
67	○		スポーツマーケティング論	将来的な独立・起業を視野に入れ、スポーツ業界におけるマーケティング手法について学び、自らのビジネスを成功に導く為の基礎的知識を修得する。	3・後	30	2	○			○			○	
68	○		情報基礎	パソコンの基本操作と、Word・Excelの基本操作・機能を学習しビジネスで求められるパソコンスキルを身につける。	3・通	60	2	○		△	○				○
69	○		コミュニケーションⅢ	コミュニケーションを通じて、自分自身の課題を抽出し、克服することを目的とする。社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上を目指す。	3・集	30	2	○			○		○		
70	○		カレッジイベントⅢ	校内スポーツ大会、学園祭、スポーツフェスティバル等の各種イベントの企画・運営・参加。	3・集	30	1	○		△		○	○		
71		○	外国語	外国語を通じて、コミュニケーション能力を養う。外国語で自分の意見や考えを述べる事が出来るようになる。	3・通	60	4	○		△	○				○
72	○		特別研修	「トレーナー・スポーツ指導者とは何か」、「トレーナー・スポーツ指導者としての必要な要素は」等を講義・実習を通じて学ぶ。又、グループ討議やコミュニケーション能力向上講座により、協調性や柔軟な発想力などの向上を目指す。	1・集	30	1	△		○		○	○		
73	○		見学実習	本実習をプロスポーツ現場で行い、そのトレーナー活動を実際に自分の目で確かめることにより、これからの学習及びトレーナー活動、スポーツ指導に役立てる。異なる競技を見学することで、競技特性に応じたトレーナーの動きやスペースの使い方を学ぶ。	1・集	30	1	△		○		○	○	○	○
74	○		トレーナー総合実習Ⅰ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	60	2			○	○	○	○	○	○
75	○		トレーナー総合実習Ⅱ	トレーナーとして必要な知識と技術を学習、習得したものを実際のスポーツ現場において総合的に実践する。	1・集	30	1			○	○	○	○	○	○
76	○		パーソナルトレーナー実習	パーソナルトレーナーとしての心得や指導概念を学び、指導に活かすことを目的とする。	2・通	60	2			○	○				○
77		○	一年次研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
78		○	一年次研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
79		○	一年次研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	1・集	60	4	○			○		○		
80		○	ボランティア活動Ⅰ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	1・集	30	1	△		○		○	○		

81		○	二年度研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○	○		
82		○	二年度研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○	○		
83		○	二年度研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	2・集	60	4	○			○	○		
84		○	ボランティア活動Ⅱ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	2・集	30	1	△		○		○	○	
85		○	三年度研究課題Ⅰ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○	○		
86		○	三年度研究課題Ⅱ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○	○		
87		○	三年度研究課題Ⅲ	専門(体育・スポーツ)分野における幅広い視点において、指定された研究課題に取り組みレポート等を作成、提出する。	3・集	60	4	○			○	○		
88		○	ボランティア活動Ⅲ	地域や企業等から要請のあったボランティアに参加する。	3・集	30	1	△		○		○	○	
合計					88	科目	3,960 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 教育課程の定めるところにより、修業年限以上在学し、教育指導計画に従って授業科目を履修し、その成果が満足できると認められたときは、所定の会議の議を経て卒業を認定する。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 教育課程の定めるところにより、教育指導計画に従って授業科目を履修する。		1 学期の授業期間	17 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。